

保護者の意向を踏まえ、集団での学習活動に取り組んだ事例

知的障害特別支援学級の児童が通常の学級で 教科の学習に取り組んだ交流及び共同学習

○概要

B小学校の知的障害特別支援学級に在籍する3年生A児の事例である。A児は先天性水頭症による運動機能障害及び中等度の知的障害と診断され、移動や排泄には介助を必要としている。A児は、特別支援学級の指導や通常の学級の児童との関わりを通して、運動機能の向上、身辺自立の確立、集団への関わりを高めるための学習を行っている。本児の興味や生活経験に基づき、社会、理科、音楽といった教科の学習に参加し、学習の達成感、集団で学ぶ喜びを実感できる交流及び共同学習を実践している。

特別支援学級では、自立活動、体育、日常生活の指導や生活単元学習等を中心に、手指の機能や体力の向上、書字など様々な学習場面で活用する知識や技能の習得を図るため、本児の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた教育課程を編成している。また、通常の学級では本児が習得した知識や技能が生かせる教材の選定を行い、共に学ぶ交流及び共同学習を推進している。さらに、中学校区を単位とした小中一貫教育に係る組織、特別支援学級設置校で組織した特別支援教育研究協議会を通じ、地域、保護者への理解・啓発、小・中学校で一貫した支援、積極的な交流及び共同学習を推進している。

1. 対象児童について

A児 : B小学校知的障害特別支援学級3年生

2. 活動のねらい

地元の保育所で学んだ友達と小学校でも共に学ばせたい、友達との関わりを深めさせたいという保護者の意向を踏まえ、居住地のB小学校に入学した。入学当初から交流及び共同学習に関して、保護者からの希望があった。A児の集団における学習経験の少なさを補うために、特別活動だけでなく、教科を増やした実施を特別支援学級の担任が提案し、社会、理科、音楽といった教科においても、交流及び共同学習を行うことについて保護者と話し合った。話合いの中では、A児の学習内容理解などを考慮し、内容の精選を行うことと、特別支援教育支援員の支援を受けながらの参加を提案している。また、個別の指導計画の中に「集団」という項目を設け、交流及び共同学習での目標、支援・手立てを明文化することとした。

保護者とは、同級生と共に学習する機会の確保がされること、及び支援内容に対して合意形成を図ることができた。

3. 事前の取組と配慮

A児が通常の学級の学習で、考えや意見を書いたり言葉で主張したりできるように、語彙の増加、書く技能の向上、コミュニケーション能力の向上を図る指導を特別支援学級で行った。その内容は、絵と言葉を結び付けて書く学習、状況を表した絵を説明し主語と述語を意識した表現方法を習得する学習である。あわせて、特別支援学級の朝の会にスピーチの場を設け、分かりやすく話す、質問に答える経験を日常的に積みませ、他者とのやりとりの技能の習得を目指した。

教科指導における交流及び共同学習の場面で、自力で学習ワークシートの記入や視写することを目指して、特別支援学級での自立活動の時間に連絡ファイル記入の場面を設けた。連絡ファイルは、日付、各時間の教科名、学習内容を記入するようになっている。連絡ファイルの記入の元となる日課表は個別に提示し、それを見ながら記入する機会を日常的に設定した。

また、生活単元学習で栽培活動を通じて自然や植物と関わる機会を設けた。A児の関わりが植物の育ちに影響を与える経験を積みさせることで、理科に対する興味や関心が深まった。

A児が見通しをもち安心して交流及び共同学習に臨むことができるように、交流学級での教科学習の内容を、事前に特別支援学級で予告するように配慮した。

4. 活動の様子と成果

事前指導の結果、A児は交流学級で自分の考えを挙手して発言することができた（写真1）。また、特別支援教育支援員がA児の思いや考えを言葉で示す支援を行いながら、理科や社会の学習ワークシートに、口述筆記により自分の学びや感想を表現できるようになってきた。

教科での交流及び共同学習では、理科、音楽、社会に参加した。A児の特性を考慮し以下のような学習内容の変更・調整を行った。

○理科では、生活単元学習で行った栽培活動での学びが生かせる単元を精選し、生物や植物の観察など自然事象に関わる単元に参加した。学習ワークシートへの記入量を調整し、支援員の口述筆記による記入を実施した。

○音楽では、音楽鑑賞の学習目標を変更した。楽曲の構造や曲想を感じ取ることを中学年の目標としているが、音の違いを聞き分けることができるA児の特性を考慮し、A児は、楽器の音色の違いに気付くことを目標とした。合奏による表現では、A児の手指の機能を考慮し鍵盤ハーモニカではなくツリーチャイムで参加し、友達と協



写真1 記述した内容に基づき、
挙手して発言しようとするA児

力して合奏する経験を得ることと態度の育成を、めあてとした。

○社会の調べ学習では、小グループでの調べ活動を進め、A児の興味のある題材を調べるようにした。スーパーマーケットの学習では、お酒売り場に興味をもち、店内での展示位置や酒の種類を詳しく調べ、まとめの場面で自分の調べたことをクラスに伝えた（写真2）。



写真2 社会で説明するA児と聞き入る3年生児童

以上の学習内容の変更や調整により、A児は教科学習で自分の学習の成果を実感するとともに、交流学級の3年生もA児の発言内容を個々の活動に生かすことができた。

5. 事後の取組、今後の課題

A児の在籍する交流学級では、学級便りを通じて3学年の学習活動の状況を紹介し、A児との交流及び共同学習の様子を伝えることで、交流及び共同学習に対する保護者の理解を図った。

学習後には、特別支援教育支援員が撮影したA児の学習の様子の写真を用いて、A児が交流及び共同学習を振り返り、学習の成果を実感する機会を設けた。また、特別支援教育支援員がA児の学習を写真とともにファイリングし、そのファイルを交流学級担任とやりとりすることで、A児の学習の成果を交流学級担任にも認めてもらうようにした。そうすることで、A児の3年生の学習に対する成就感や達成感の向上を図った。ファイルによるやりとりを通じて、交流学級担任からA児への日常的な言葉掛けが増え、それが交流学級の3年生の児童にも波及し、A児の交流学級への帰属感が高まった。

A児は、通常の学級の児童と共に学ぶための知識や技能を、特別支援学級の学習によって身に付けてきている。また、交流及び共同学習での合理的配慮により、A児は集団への帰属意識をもち、様々な人々との学習活動における達成感や学習の成果を実感してきた。

しかしながら、成長とともにA児の教育的なニーズや保護者の要望も変容していくことが予想できる。また合理的配慮も成長に合わせて改善し、適切に提供していかなければならない。そのため、学習におけるニーズを的確に把握し合意形成を図るための教職員の知識、ニーズや成長に応じた合理的配慮を構想し実践する教職員の指導力の向上が求められるので、教職員の専門性を高める研修機会の充実が必要である。